平成26年度ちばコラボ大賞 応募事例

世界一行きたい科学広場in浦安
科学実験やものづくりの楽しさを味わうこと

次世代を担う子供たちに、ものづくりや科学等に興味を持ってもらうため、市民活動団体や企業、学校等による実行委員会を中心に、浦安地域で大人から子供まで楽しめる科学の祭典を実施しています。

学校サポートボランティアによる毛筆授業の指導補助

IT等の普及による活字離れが進み、伝統文化である書道の衰退が危惧されています。そこで、流山市教育委員会が募集する「学校サポートボランティア」に登録している市民活動団体が、市内の小学校の書道授業で教員の指導補助を行っています。

市川市失語症会話ボランティア養成講座・失語症会話パートナー派遣事業

意思疎通が困難な失語症の方は支援があれば豊かな生活が送れますが、支援出来る人的資源は少ない現状です。そこで、市民活動団体と企業、行政の連携により、会話ボランティアの養成講座や、派遣事業を実施しています。

団地における住民ニーズを反映させた孤立防止の取り組み

高齢者の孤立防止について、八千代市内の米本団地の高齢者を対象に実態調査を行い、それを基に在宅訪問血圧測定を実施しています。市民活動団体と大学、自治会が連携して取り組み、一定の成果をあげています。

環境にやさしい花いっぱいのおらが町づくり
～ハンギングバスケットを用いた花壇づくり～

地域の学校や様々な団体が連携し、不要になったペットボトルをハンギングバスケットとして活用することで、環境に優しい花いっぱいのまちづくりと住民の環境意識の向上に貢献しています。

住民参加と地域資源の協働による「安全・安心のまちづくり」

人口減少と少子高齢化による地域力の低下に対応するため、地域住民と大学、行政の連携により、「安全・安心のまちづくり」の実現に向け、健康相談や傾聴ボランティア、コミュニティカフェの設置・運営等を行っています。

10年間閉鎖されている廃墟を町おこしの拠点に
KANAYA BASE

かつて砕石の町として栄えた地域で人口流出が続いていたことから、田舎と都会の二拠点生活の場づくりを目的に、放置されていた建物をリノベーションし、イベント等を開催することで、皆が集う拠点づくりを行っています。

「食と健康」についての食育推進事業

健康な生活に重要である「食」への理解促進を図るため、市民活動団体と企業が連携して一般県民が訪れるイベント等で無料の血管年齢測定を行うとともに、その結果を踏まえた食育相談等、一連の食育活動を行っています。

※応募事例については、実施団体から了承を得た事例のみ掲載しています。

平成26年度 スケジュール

6月～ 8月／連携事例の募集
9月～10月／事務局による一次審査
10月～11月／審査委員による二次審査
12月／表彰式

※27年度の募集も、6月頃から開始する予定です。

▼千葉県ホームページ「ちばコラボ大賞」

その他、詳細はホームページをご覧ください。

http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/collabo/index.html

第4回 ちばコラボ大賞
連携事例紹介リーフレット

平成27年3月　　編集・発行

千葉県環境生活部県民生活・文化課
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL 043-223-4133/FAX 043-221-5858
Email: npo-zigyou@mz.pref.chiba.lg.jp
平成27年度からは、
npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp となります。

第4回

ちばコラボ大賞

連携事例の紹介

県内には、福祉や環境、子育て、
まちづくりなどのさまざまな分野で、地縁団体、
企業や学校、行政機関等と市民活動団体とが連携して
地域の課題解決に取り組むことで、
成果をあげている事例がたくさんあります。
県では、そのような連携事例の中から、他の模範となるような優れた事例を
「ちばコラボ大賞」として表彰しています。
第4回目となる平成26年度は、県内各地から12件の応募があり、
審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたのでご紹介します。

千葉県
マスコットキャラクター
「チーバくん」

千葉県環境生活部県民生活・文化課

表彰式

表彰式には諸橋副知事や鎌田元弘審査委員長が出席し、鎌田委員長から講評をいただいた後、賞状の授与や記念撮影などが行われました。

また、諸橋副知事からは「皆様のような取り組みが千葉県全域で広く行われ、支え合いと活力ある千葉県づくりが促進されることを期待しています。」とのメッセージが送られました。

審査委員長からの講評

「ちばコラボ大賞を受賞された皆様おめでとうございます。千葉県は都市部から過疎地域まである全国の縮図のような県であるとともに、協働の取り組みが多彩であるため、今回の受賞は大変価値のあるものだと思います。審査の際に重視したのは『連携・協働』の視点であり、県内各地で進められている協働のモデルとなるような事例を選定いたしました。

今回の受賞をきっかけに、より一層活動を継続・発展させていただき、千葉県そして全国の協働のまちづくりに尽力していただけることを祈念いたします。」

千葉工業大学 副学長 鎌田 元弘 氏

表彰事例 1　まちづくり・観光振興　旭　市

復興観光 ―被災から花と緑いっぱいのまちづくり―

○ 花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会

協議会の立ち上げ

東日本大震災の津波によって甚大な被害を受けた旭市飯岡地区では、地域の様々な人々や団体により構成されている協議会が復興活動に取り組んでいました。その協議会の円卓会議で、『花と緑』をテーマにした活動を通じて地域住民の活力や笑顔を取り戻そうという発議をきっかけに、当時の会員を中心とした「花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会」を新たに立ち上げ、活動を開始しました。

花と緑いっぱいの街へ

地域の学校や神社の境内、被災で空き地となったままの場所に地域住民が植栽活動を行いながら交流することで、地域に花と笑顔を増やすコミュニティガーデンづくりや、市内外の企業や学校を対象に津波被害を語り継ぐための防災教室を受け入れています。また、観光遊歩道（古道）の整備・植栽をした結果、その道が津波避難路として活用されることになりました。他にも特産品を活かした弁当や土産品の開発も行うなど、活動も多種、関わる人々や団体も多様ですが、円卓会議を核にそれぞれの特長を活かして協働することで、地域活性化・地縁回復に貢献しています。

【評価ポイント!】

防災を観光に活かすという独創的な事例であり、地域の実施団体により構成される円卓会議を通じて様々な人々を巻き込み、幅広い分野で課題解決に取り組むことで、復興のまちづくりに大きな成果をあげています。

小学校でのコミュニティガーデンづくり

復興を願う「祈念樹」の植樹

表彰事例 2　文化・まちづくり　館山市

青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅を活かした漁村のまちづくり

○ NPO法人安房文化遺産フォーラム　○ 青木繁≪海の幸≫誕生の家と記念碑を保存する会　○ NPO法人青木繁「海の幸」会
○ 富崎地区コミュニティ委員会　○ 布良崎神社　○ 館山市　○ 館山市教育委員会　○ 館山美術会　○ NPO法人全国生涯学習まちづくり協会
○ 千葉県歴史教育者協議会　○ 財団法人石橋財団石橋美術館　○ 青木繁旧居保存会　○ くるめつつじ会

少子高齢化の進む漁村の活性化

かつてマグロ漁で栄えていた館山市富崎地区は、日本を代表する明治の画家青木繁が『海の幸（国重要文化財）』を描いた漁村として知られています。近年、水産業衰退に伴う少子高齢・過疎化が深刻になり、漁村が誇る歴史文化を活かしたまちづくりができないかと考え、NPO法人安房文化遺産フォーラムが事務局を担い、青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会を発足しました。漁村の歴史文化の調査やヘリテージまちづくり講座、樹木伐採などの環境整備、郷土料理レシピ集の作成など、多様なまちづくり活動に取り組んでいます。

「海の幸」（出典:石橋財団石橋美術館）

小谷家住宅の修復・公開に向けて

この経緯のなかで、青木繁が滞在した小谷家住宅は館山市指定文化財となりました。保存に賛同した全国の著名な画家もNPO法人青木繁「海の幸」会を立ち上げ、チャリティの青木繁「海の幸」オマージュ展を全国巡回で開催しています。館山市ふるさと納税制度を活用しながら、小谷家住宅の修復基金を集め、平成28年春の一般公開を目指しています。

【評価ポイント!】

実施団体が役割分担して地元の文化遺産である小谷家住宅の修復の道筋をつけるとともに、その活用により地域の魅力に磨きをかけ、地域内外の人々の絆を深めています。

小谷家住宅前での集合写真

表彰事例 3　子どもの健全育成・地域安全　八千代市

緑が丘クリーンプロジェクト ―地域の清掃から安心・安全な街を目指して―

○ 緑が丘クリーンプロジェクト　○ 八千代市立みどりが丘小学校　○ 八千代市社会福祉協議会 緑が丘支会
○ 八千代市社会福祉協議会 大和田新田上支会　○ 株式会社 サイサン 千葉支店　○ 社会福祉法人 八千代翼友福祉会
○ イオンモール株式会社イオンモール八千代緑が丘　○ 八千代市防犯組合連合会　○ 八千代市　○ 八千代市教育委員会

地域のみんなで街を綺麗に

緑が丘地域は、平成8年の東葉高速鉄道開通により人口が増加していく一方で、新規住民同士の交流が少なく街に対する愛着度も低い状態でした。そういった背景の中で、清掃活動を行っていた緑が丘クリーンプロジェクトが、地域住民を巻き込んで一緒に清掃活動を行うことで、地域住民の交流促進と街への愛着度アップに繋がるのではないかと考えたことをきっかけに、地域住民を巻き込んだ清掃活動を開始しました。

八千代緑が丘駅周辺での清掃活動

安心・安全な街を目指して

地域に活動を拡げていくため近隣の企業や学校等に参加を呼びかけながら清掃活動を重ねたことで、徐々に活動が地域に拡がり、現在は毎回数十名の地域住民が清掃活動に参加しています。また、活動が地域に拡がったことで様々な団体から連携の依頼があり、多世代交流を図る餅つき大会や、パトロールや防犯チラシの配布等により地域の安全を守る防犯活動を実施していくことになりました。防犯活動を開始してから八千代緑が丘駅周辺で多発していた自転車の盗難件数が減少するなど、着実に効果が出ています。

【評価ポイント!】

無理のない「ゆるやかな連携」による市民主導型の活動であり、参加者や活動範囲が着実に広がっているため、今後の更なる展開が期待され、他の地域にも参考になります。

警察と連携した防犯活動